

歎異抄 第七章

一 念仏者は無礙の一道なり。そのいはれいかんとならば、信心の行者には、天神・地祇も敬伏し、魔界・外道も障礙することなし。罪悪も業報を感ずることあたはず、諸善もおよぶことなきゆへなりと「云々」。

念仏というのは、いかなる障害によっても妨げられない自由の境地に遊ぶことであります。その理由を申しますならば、信心が固い念仏の行者には、天の神、地の神もおそれ従い、いかなる魔物、悪者といえども念仏を妨げることができず、また、いかに深い前世からの業の報いも、念仏の行者に及ぶことはなく、いかなる善といえども、この念仏の善に到底及びませんので、念仏は何ものにも妨げられない自由な境地にいることができるのです。

歎異抄 第八章

一 念仏は行者のために非行・非善なり。わがはからひにて行ずるにあらざれば非行といふ、わがはからひにてつくる善にもあらざれば非善といふ。ひとへに他力にして自力をはなれたるゆへに、行者のためには非行・非善なりと「云々」。

念仏は、これを称える行者のためには、善でもなく行でもないので。行というのは自分の力です。ことですが、念仏は自分のはからいではなく、阿弥陀様のお召しによってさせられるのですから、行ではないのです。また、善というのは自分の力です。ことに關して言うのですが、念仏は自分のはからいではなく、阿弥陀様からさせられるのでありますから、善ではないというわけです。自力を離れていますので、念仏は行者にとってもまったく行でもなく善でもない、非行・非善なのです。

【念仏者は】念仏とは。

【無礙の一道】何ものにも妨げられない唯一の大道。

【信心の行者】仏の本願力を信じて念仏する人。

【天神・地祇】天の神と地の神。

【敬伏】うやうやしく従う。敬服する。

【魔界】魔の世界に住むものの意で、仏道修行を妨げ、危害を加える悪鬼神をいう。

【外道】仏教以外の宗教や思想をもつものの意で、魔界と同じく仏法を妨げるものをいう。

【業報】過去の行為のむくいとしておこる悪い結果。

【行者】念仏を称えるひと。

【非行・非善】行でもなく、善でもない。